

「ウクライナ戦争」と安倍晋三元首相

『世界』5月号、緊急特集「ウクライナ 平和への道標と課題」は読みごたえある論考が並ぶ。まずは、ジャーナリストの金平茂紀さんの「ウクライナ侵攻から導き出された言葉—『殺すな！』」。ウクライナ取材から、戦場となった現地の生々しい現実を伝える。それと金平さんらしい鋭い指摘に注目した。抜粋して紹介する。

欧米主要メディアの報道の対極にあるのが、テレビのワイドショーなどの安全なスタジオでの、タレント、芸能人、自称専門家を名乗る一群の人々の無責任な発言だった。たちの悪い謀略史観、善悪二元論（正義 vs 邪悪）での断罪、論理飛躍した中国攻撃説（中国はロシアの友、次は尖閣、台湾だと煽る）、歴史に対する知識の致命的欠如、（ウクライナがかつてソ連領土だったことさえ知らない。キエフ大公国の歴史など）、そして最も低劣かつ悪質な「核シェア」論など、日本の危機があぶり出されているような錯覚にさえ陥る。ナオミ・クラインのいうショック・ドクトリン＝惨事便乗型資本主義の粗雑かつ幼稚な形態を見せつけられる思いがした。多くの人々が困難な状況に陥っている時に、ここぞとばかり火事場泥棒と化す人々がどの国にもいる。

あまりに低劣なので少々言及しておくが、安倍晋三元首相がフジテレビのワイドショーで発言したとかいう「核シェア」論。日本は、核兵器を戦争で実際に使われた唯一の国である。本来、核兵器の脅しについては最も研ぎ澄まされた考えが提示されて然るべき国柄なのだ。その日本の元首相が、こともあろうに、アメリカの核兵器を日本に配備してもらって、日米で共同管理することを議論する時ではないか、という噴飯ものの主張を展開したのだ。

安倍氏におかれては、プーチン大統領という権力者と 27 回もの会談を重ねて、何ら相手の心性を理解することができず、2019 年にプーチン大統領に次のように呼びかけていた文言を、将来、ご自分の墓石に刻まれてはいかがか。「ウラジミール。君と僕は、同じ未来を見ている。行きましょう。……ゴールまで、ウラジミール、二人の力で駆けて、駆け、駆け抜けようではありませんか。」

『文藝春秋』の緊急特集「ウクライナ戦争と核」には、安倍晋三元首相が登場している。写真上にロシアのプーチン大統領との会談を掲げている。「核共有」の議論から逃げるな、中国・ロシア・北朝鮮からこの国を守るためにと、危機に便乗したような発言を紹介している。『世界』との違いが際立つ。

「核共有」「敵基地攻撃」、そして防衛費の倍増など、ウクライナ戦争に便乗した主張が自民党を中心に叫ばれている。こんな状況の時こそ、冷静で大局的な議論が必要であろう。



(2022年4月19日)